

令和6年12月12日

瑞浪市長 水野 光二 様

**瑞浪駅北地区複合公共施設についての
アンケート結果報告書**

瑞浪市議会 地域経済建設委員会

◎調査趣旨(背景・目的)

地域経済建設委員会では、瑞浪駅北地区複合公共施設の建設は瑞浪市の未来を決める大型事業の一つであり、市民や利用者に寄り添ったかたちで実現されることが望ましいと考える。このため、新しく建設される施設の設計や運営に対して市民や利用者から意見を聴取し、反映すべき事項を委員会で議論し、整理して、今後の事業推進に役立てることを目的にアンケート調査を実施することとした。

◎調査方法

(1)街頭アンケート(選択式による街頭パネルアンケート調査)

① 瑞浪市総合文化センター・瑞浪市民図書館前

調 査 日 : 令和6年7月28日

調査対象 : 施設利用者 (当該日、文化ホールにてミュージカル公演あり)

回答件数 : 63件

② 瑞浪美濃源氏七夕まつり会場

調 査 日 : 令和6年8月11日

調査対象 : 来場者

回答件数 : 145件

(2)WEB アンケート(瑞浪市議会ホームページとリンク)

調査期間 : 令和6年7月26日～9月4日

調査対象 : 瑞浪市民 他 WEB 回答者

回答件数 : 65件

(3)子育て世代・施設利用者アンケート(訪問、設置による記述式のアンケート)

調査期間 : 令和6年7月26日～9月9日

調査対象 : 文化ホール利用団体 貸室利用者 図書館利用者 学習室利用者
子育て世代(保育事業所利用者、学童利用の保護者等)

回答件数 : 330件

◎調査結果の概要

○街頭アンケート

瑞浪駅周辺まちづくりが目指す「未来の子どもたちに渡せるまち」、駅北地区複合公共施設のコンセプトである「市民や東濃地域のサードプレイス」の実現に向け、市内外を問わず学生や子育て世代が望む施設は何かを調査する必要があると考えた。利用需要の高い複合公共施設とするために、文化センターの自主事業への参加者及び図書館利用者等の実際の利用者と駅周辺施設を利用している若い世代を中心にアンケート調査を実施した。

【アンケート結果】

- ◇回答総数は208件で、そのうち市内在住が128名、また世代別では、子育て世代が70名、20代以下が112名で78%を占めている。
- ◇文化センターの一部機能と図書館機能が瑞浪駅北地区へ移転することについては、259件の回答があり「知らなかった」という回答は62.9%であった。その多数は市外在住であったものの、学生や20代の市民にも「知らなかった」の選択者が多く、周知不足を感じた。
- ◇複合公共施設の開館、閉館時間については、447件(2つ選択可)の回答があり「今と同じでよい」という回答が43.0%、「時間外でも利用できるスペースがほしい」という回答が39.6%であった。
- ◇欲しい機能については、745件(3つまで選択可)の回答があり、「カフェスペース」という回答が24.8%、「自由に過ごせるスペース(キッズスペースを含む)」という回答が17.2%、「学習室のスペースや座席数」という回答が13.3%であった。

○WEBアンケート、子育て世代向けアンケート、施設利用者アンケート

駅北地区複合公共施設を訪れたくなる施設とするためには、にぎわいがあり、魅力的で利用しやすく、市民ニーズが取り入れられている必要がある。これには、子どもや中高生、子育て中の方等の若い世代の意見と、文化センターや図書館の実際の利用者の意見が必要であると考え、アンケート調査を実施した。また、WEBアンケートは、幅広い世代から意見を広聴するために実施し、多項目にわたる質問に回答をいただいた。アンケート結果は、年代別、性別、居住地別、利用者別でクロス集計により分析した。そのうち利用者別では子育て世代、図書館利用者、学習室利用者、文化センター利用者で行い、魅力ある施設とするための考察を行うことができたと考える。

【アンケート結果】

◇回答総数は395件で、そのうち市内在住が93.7%であった。世代別では、30代、40代の合計が34.7%で、20代以下が37.9%であった。

◇複合公共施設の整備において重視すべきことについては、130件の回答があり、「市の実態に見合った規模・事業費での整備」という回答が26.2%、「市民ニーズの反映、情報公開」という回答が25.4%、「駐車台数の確保、交通の利便性」という回答が24.6%であった。

◇複合公共施設に新たに整備してほしい機能については、795件(2つ選択可)の回答があり、「カフェ機能を持ち、待ち合わせや会話をしながら自由にくつろげるスペース」という回答が21.6%、「読書や調べもの、学びに集中できる静かなスペース」という回答が17.4%、「子どもたちが楽しめるキッズスペース」という回答が16.9%であった。

◇複合公共施設の利用目的については130件の回答があり、「図書館スペースを利用」という回答が23.1%、「カフェを利用しながら友人や家族と過ごす」という回答が20.0%であった。

◇複合公共施設でどのような講座や講演を受講したいかについては、475件(2つ選択可)回答があり、「趣味や暮らしの分野(芸術・文化・学習など)」という回答が34.7%、「美容や健康の分野(運動や体操など)」という回答が19.6%であった。

◇複合公共施設の休館日については、390件の回答があり「今まで通り月曜日は休館でよい」という回答が33.6%であった。

◇複合公共施設(カフェ機能含む)の開館時間については251件の回答があり、「午前9時」という回答が55.4%であった。同じく閉館時間については250件の回答があり、「21時」という回答が41.2%であった。

◇図書館(学習スペース含む)の開館時間については198件の回答があり、「9時」という回答が56.1%であった。同じく閉館時間については196件の回答があり、「21時」という回答が36.2%、「20時」という回答が32.7%であった。

◇複合公共施設で子どもや親子が楽しむために求める機能については、161件の回答があり、「年齢区分や、動的な遊びと静的な遊びで空間を分けたスペース」という回答が32.3%、「保護者が会話をしながら、子どもたちを安心して見守ることができるキッズスペース」という回答が29.2%であった。

◇図書館機能で、子ども向け、子育て世代向けに拡充したいことについては295件の回答があり、「本の種類や冊数」という回答が37.3%、「読み聞かせや、未就学児と子どもが読書するスペース」という回答が28.1%、「子ども向け読書スペース(読み聞かせを含む)の防音機能」という回答が22.7%であった。

◇図書館機能のうち、読書スペースで拡充したいことについては387件の回答があり、「静かに集中できる読書スペースとオープンスペースとの分離」という回答が27.4%、「カフェ機能を持つ読書スペース」という回答が19.9%であった。

◇図書館機能のうち、学習スペースで拡充したいことについては376件の回答があり、「個別学習用の机と椅子の設置」という回答が27.4%、「グループで学習するスペースと集中できるサイレントスペースの分離」という回答が19.4%であった。

◇複合公共施設の多目的ホールの利用目的については174件の回答があり、「演奏会、演劇」という回答が39.7%、「子どもや地域向けイベントの開催」という回答が23.6%であった。

◇複合公共施設にどのような貸室があるとよいかについては、165件の回答があり「ダンスレッスン等のための鏡張り貸室」という回答が29.1%、「楽器演奏などのための防音室」という回答が27.9%、「会議室」という回答が27.3%であった。

○添付資料(アンケート調査結果)

資料1 街頭アンケート結果一覧

資料2【WEB・子育て世代・施設利用者】アンケート結果一覧

資料3【WEB・子育て世代・施設利用者】アンケート結果一覧(グラフ)

◎調査結果の考察

1. 複合公共施設の整備において重視すべきことについて

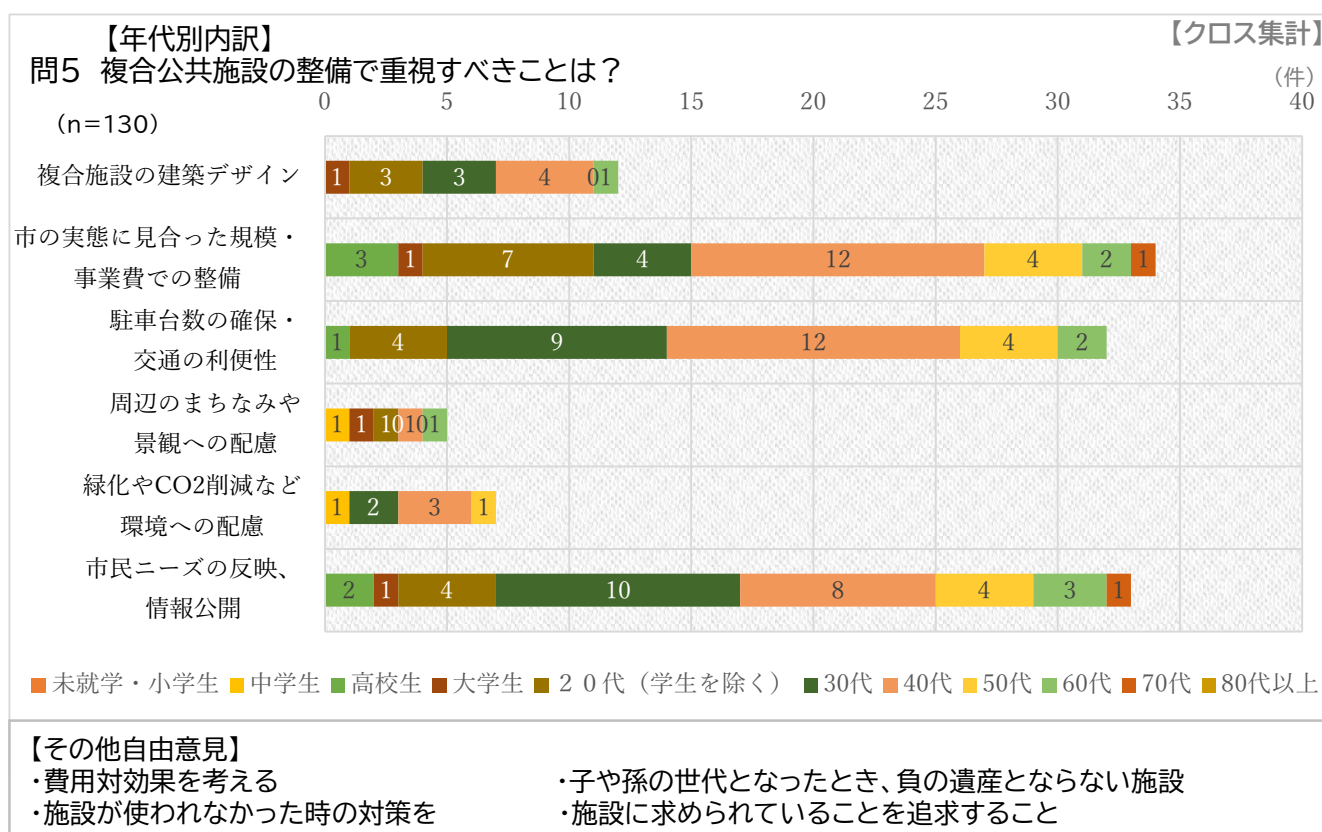
市の実態に見合った規模・事業費での整備を重視すべきという回答が多く、特に高校生～40代の選択割合が高かった。将来にわたり費用負担の少ない施設の整備が求められていると考える。

また、市民ニーズは時代に応じて変化するため、長期間の利用が可能となるように建物の用途や機能、間取りの変更等にフレキシブルに対応できる施設にすべきだと考える。

施設の整備にあたっては、市民ニーズを反映すること、施設の整備や駅周辺再開発事業の施策についての情報を公開することが求められている。瑞浪駅北地区への公共施設の集約化による建設に対して、特に将来的な費用負担を心配する声があり、建設に向けた事業の透明性を確保するために事業実施地域以外においても細やかな説明が必要であると考え。

アンケート全体で多世代交流が可能となる施設を望む傾向にあった。若い世代だけでなく、高齢者も気軽に利用できるような施設を望む意見もある。若年層に偏り過ぎることなく、子どもから高齢者まで幅広い世代が利用しやすく、交流が可能な施設整備と運営が求められている。

その他に、瑞浪市の玄関口としての機能の整備を望む意見もあった。瑞浪市観光協会等と連携して市の名所等の案内や市特産品の展示や販売等、市内外への情報発信拠点地としての検討も必要と考える。

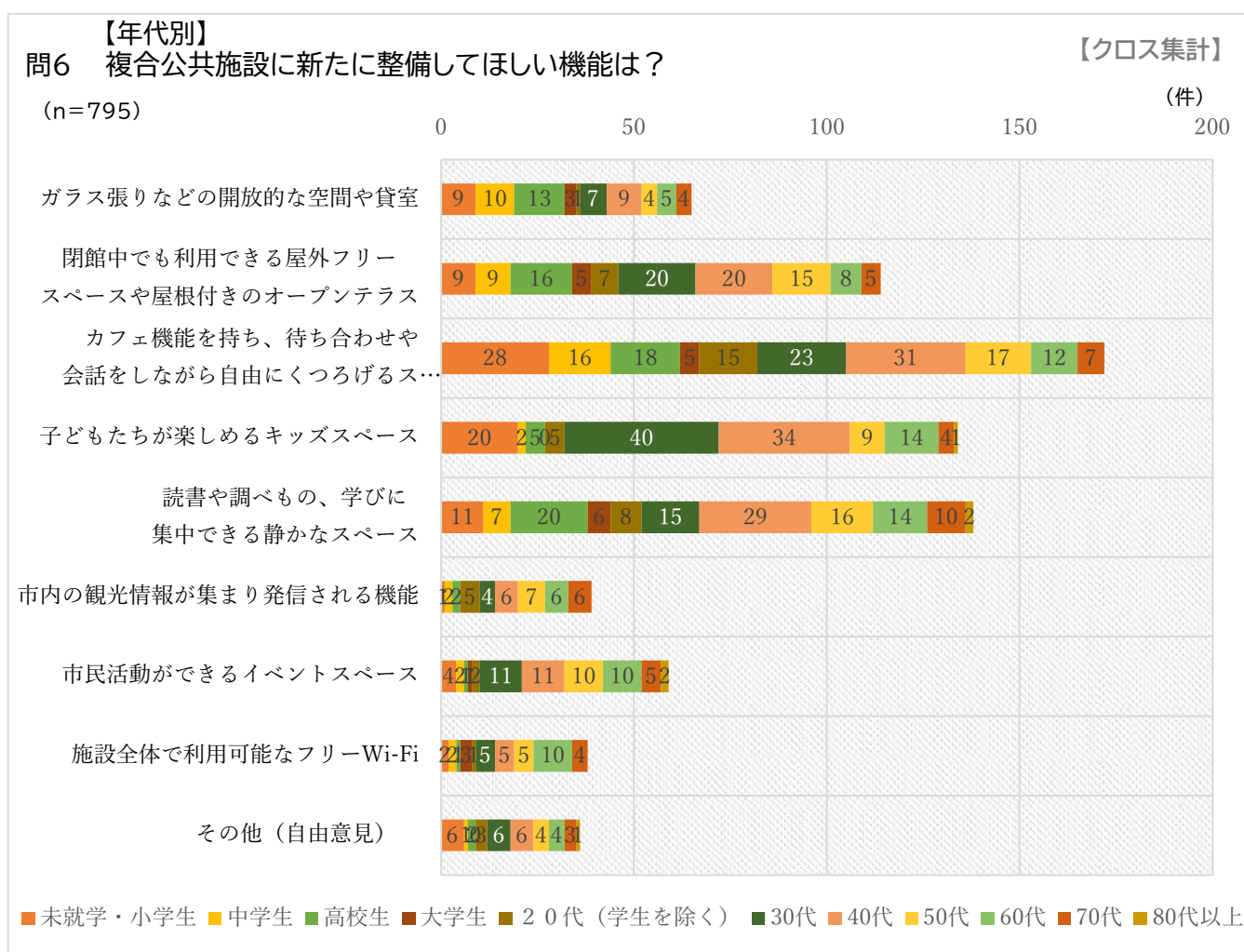


2. 新たに整備してほしい機能について

全世代において、カフェ機能があり自由にくつろぐことができるスペースを求める回答が多く、利用者別では文化センター利用者と子育て世代が多く選択した。このことから、目的を持って施設を利用する人より、集う場所としての利用者の方がカフェ機能を求めているといえる。

また、子どもたちが楽しめるキッズスペースが欲しいという回答が多かったことから、子育て世代が周りの視線を気にすることなく楽しめるような、こども専用の設備やこどもの目線に合わせた空間づくりが望まれていることが分かる。このため、図書館機能におけるキッズスペースだけでなく、年齢区分で子どもが自由に遊べるスペースや、カフェ機能の併設を含め子どもを安心して見守ることができるスペースの整備が必要だと考えられる。

加えて、現在の図書館前の芝生広場のように屋外で読書をしたり気軽に声をあげて楽しむことができるエリアと、天候に左右されることなく子どもが滞在、交流、避難できる専用の遊戯エリアの整備が求められている。



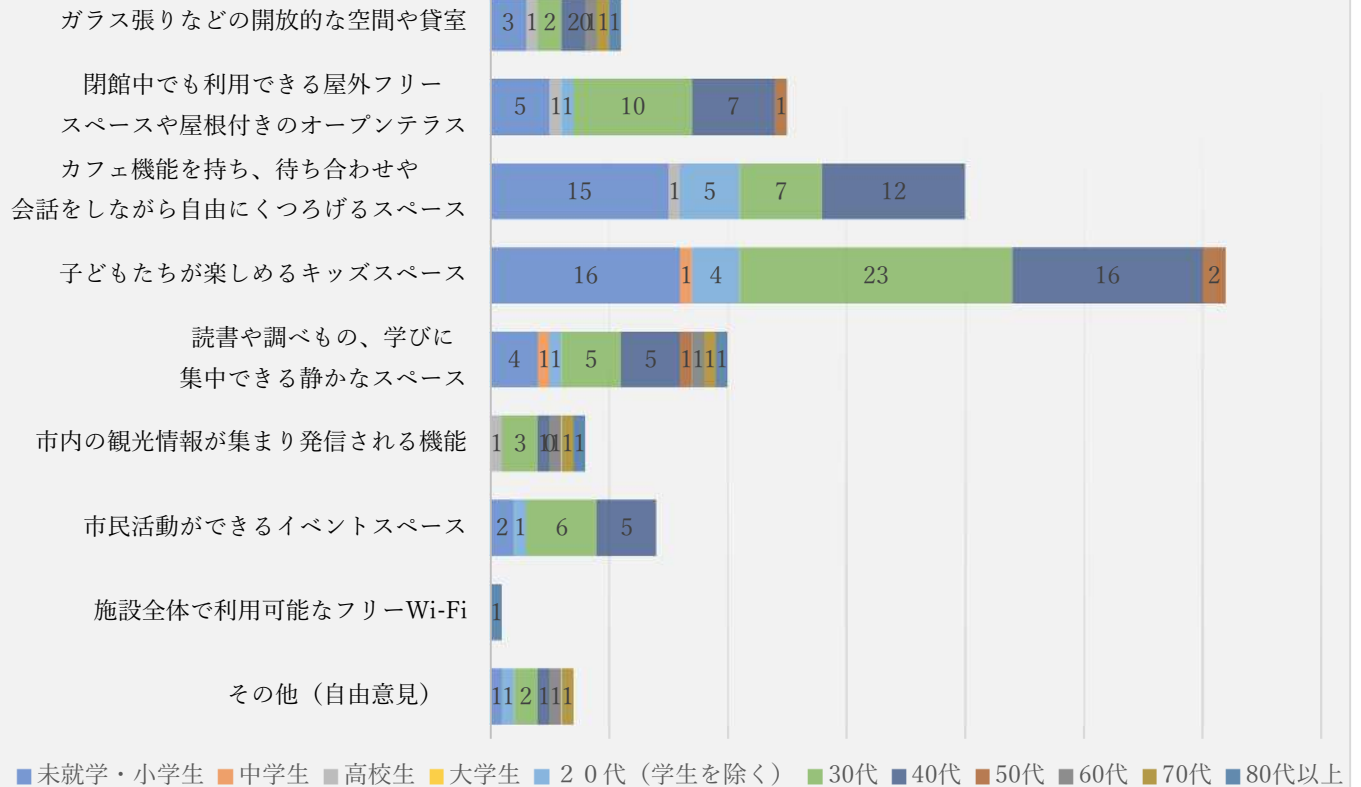
【子育て世代 年代別内訳】

【利用者別クロス集計】

問6 複合公共施設に新たに整備してほしい機能は？

(件)

(n=188)



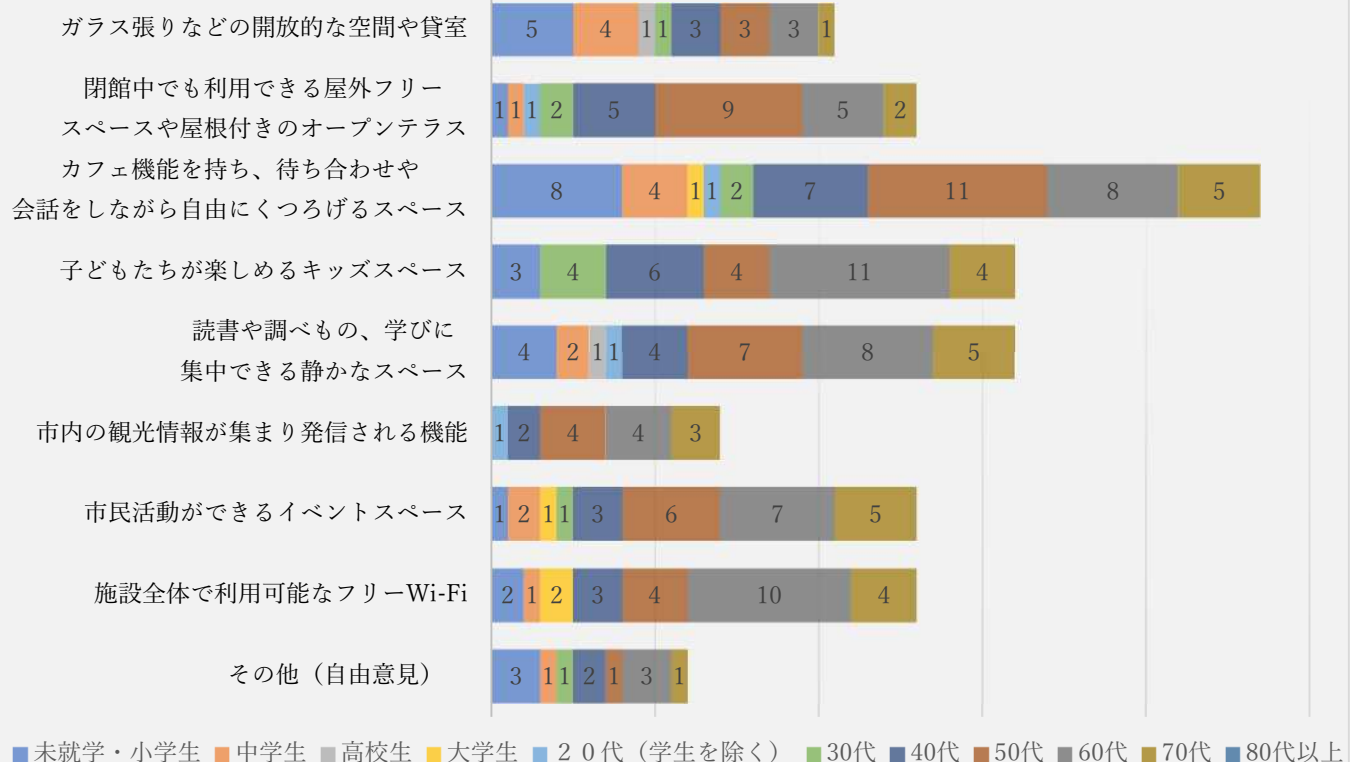
【文化センター利用者 年代別内訳】

【利用者別クロス集計】

問6 複合公共施設に新たに整備してほしい機能は？

(件)

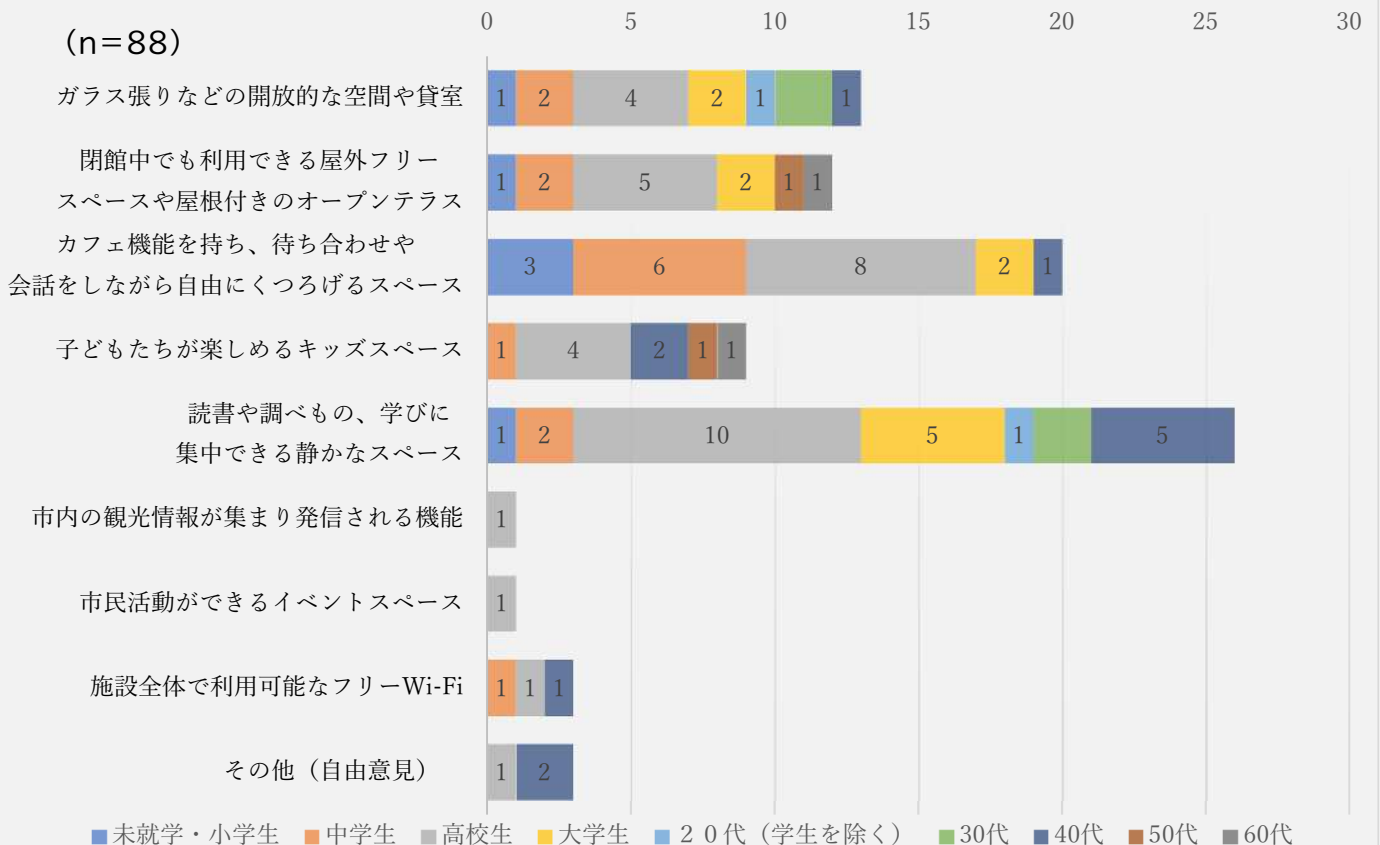
(n=236)



【学習室利用者 年代別内訳】
問6 複合公共施設に新たに整備してほしい機能は？

【利用者別クロス集計】
(件)

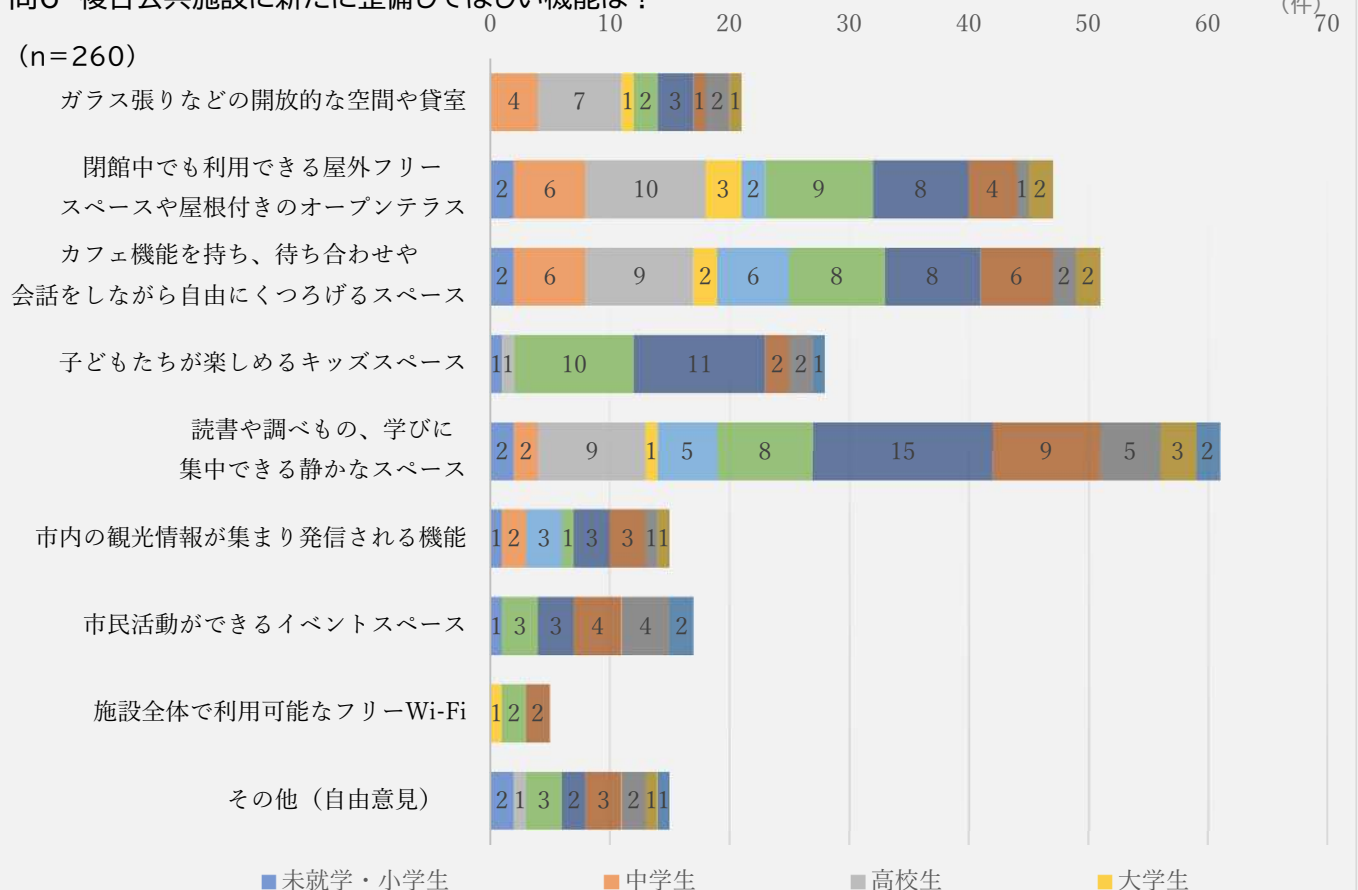
(n=88)



【図書館利用者 年代別内訳】
問6 複合公共施設に新たに整備してほしい機能は？

【利用者別クロス集計】
(件)

(n=260)



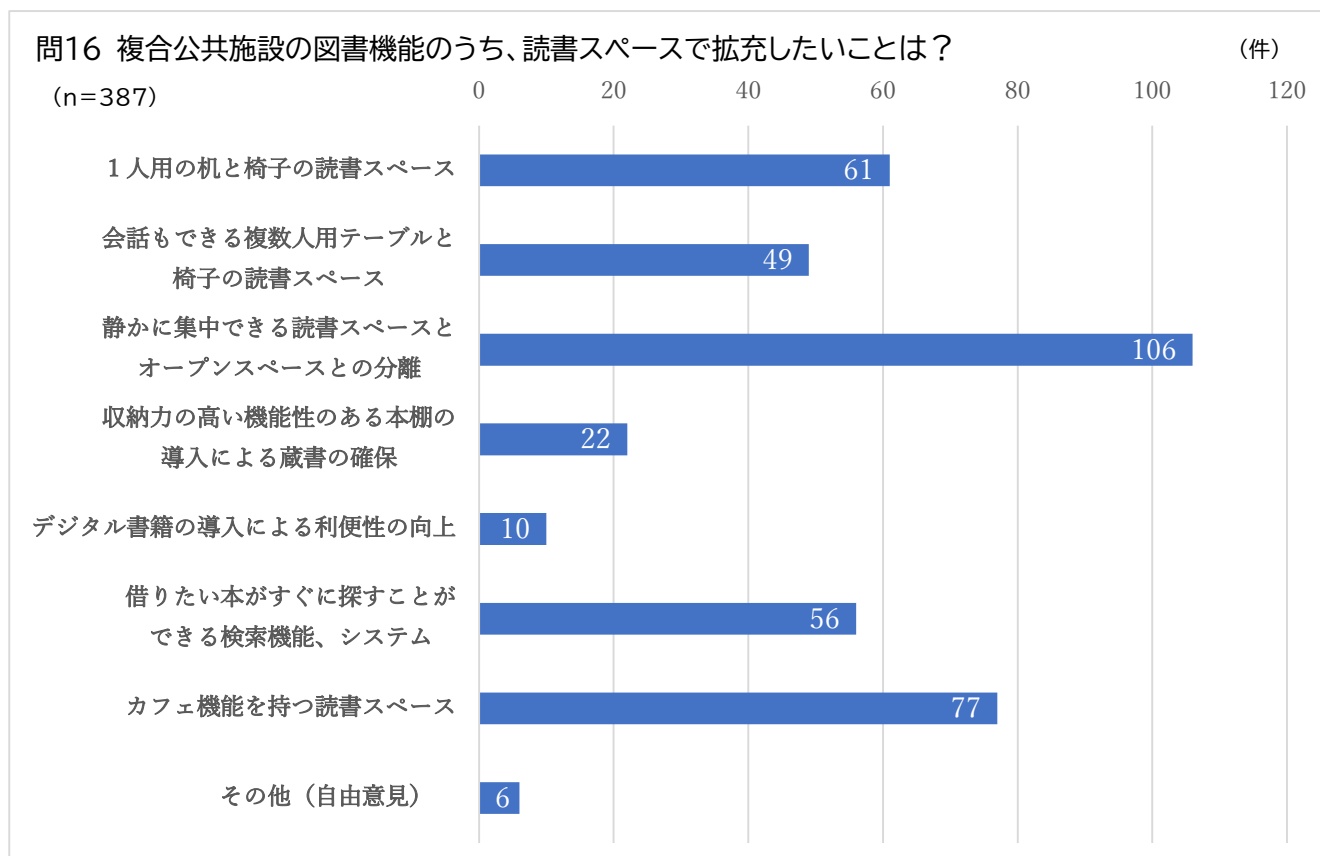
3. 複合公共施設のゾーニングについて

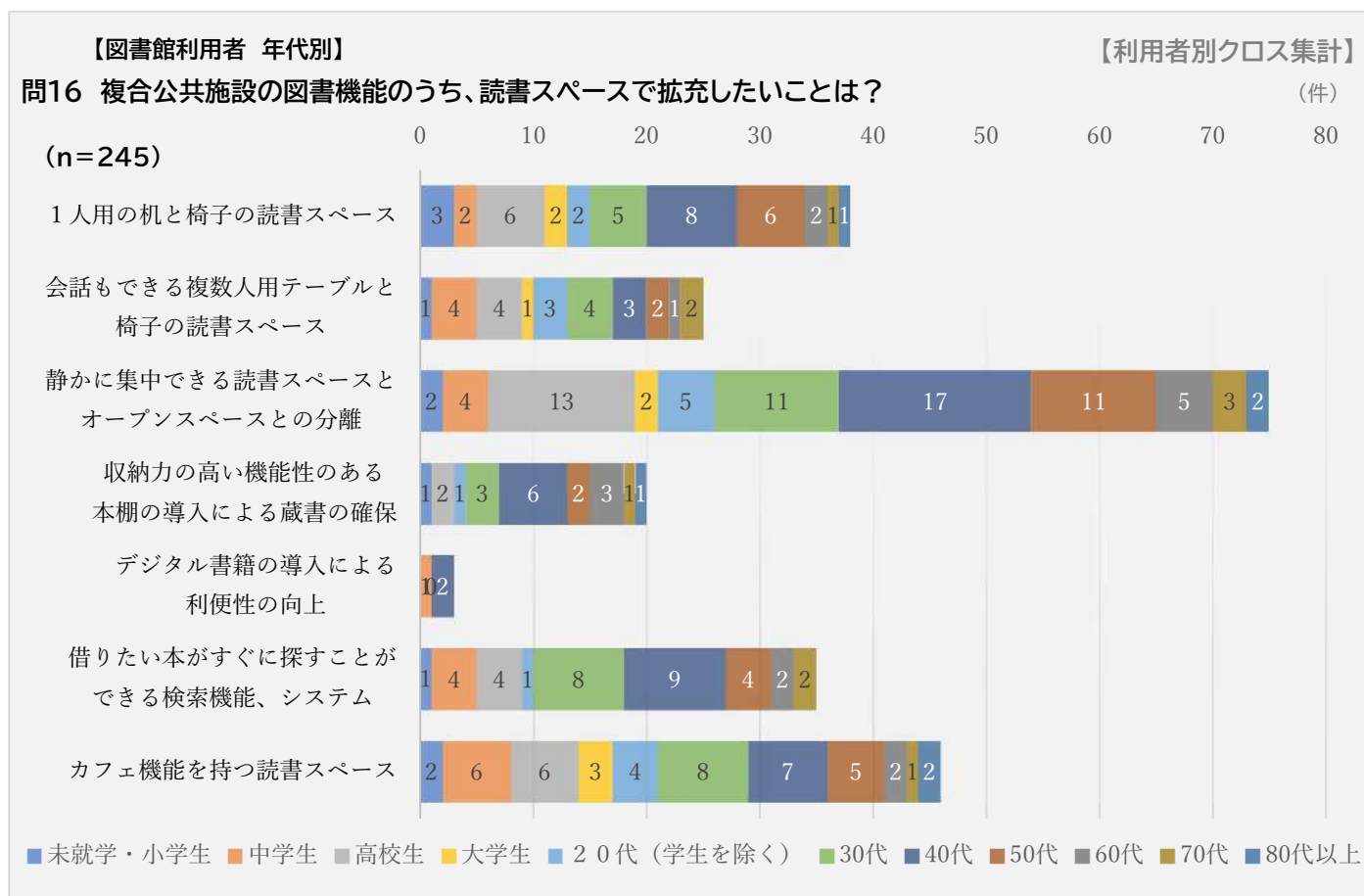
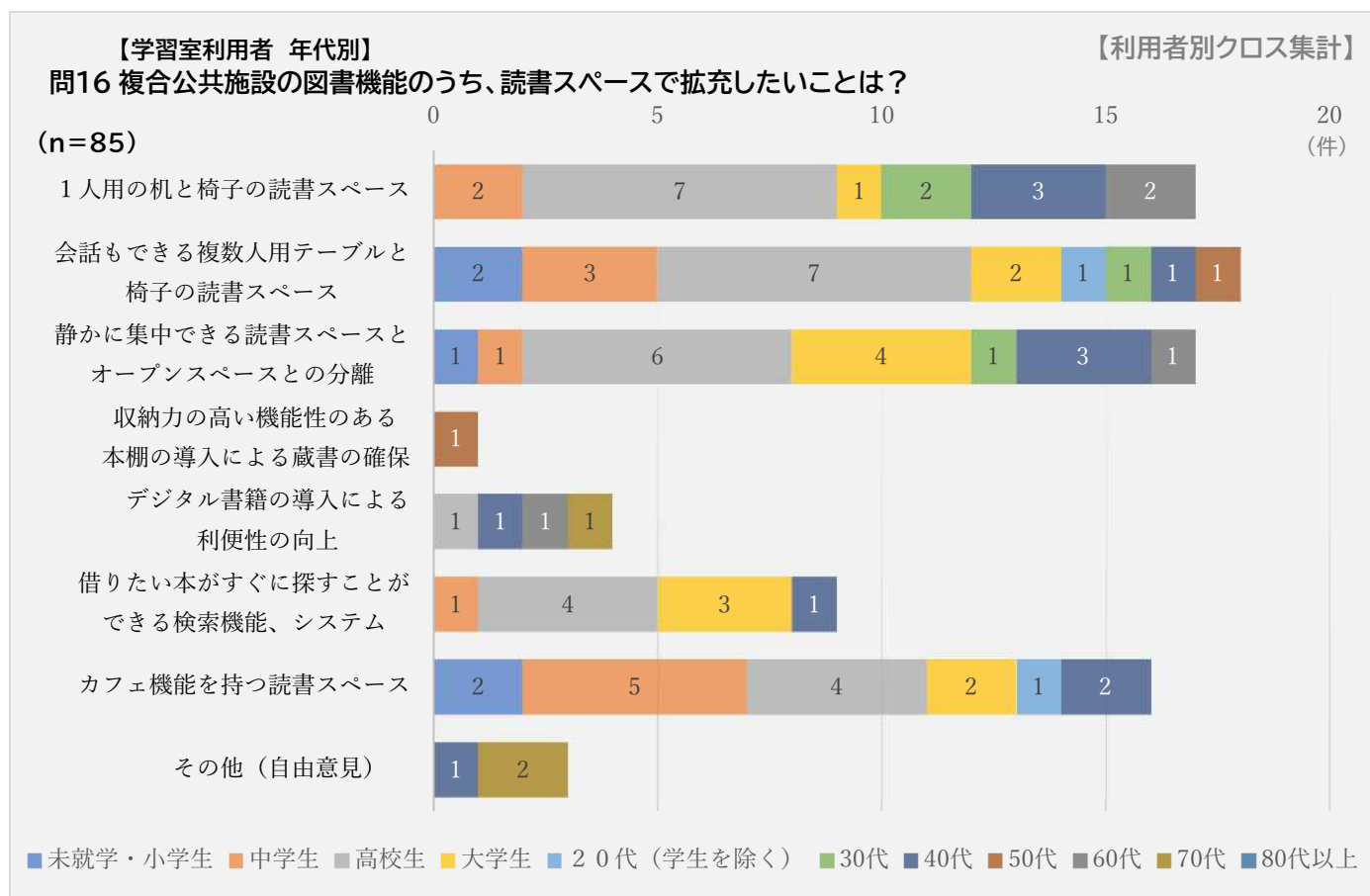
図書館利用者と学習室利用者において、静かに集中できる読書スペースとオープンスペースとの分離、またグループで学習するスペースと集中できるサイレントスペースの分離を求める回答が多いことから、緩やかなゾーニングエリアとは別に、仕事や勉強に集中できるサイレントルームの設置を求めていると考えられる。

また、キッズスペースや子ども向け防音スペースの機能を求める回答も多かったことから、他の利用者を気にせず読み聞かせ等ができ、他と仕切られたキッズスペースを求めていると考えられる。

読書スペース及び学習スペースで拡充したいことについては、図書館利用者と学習室利用者が共に、「1人用の机といすの読書スペース」及び「個別学習用の机と椅子の設置」の回答が多かった。また、グループ学習と集中できるサイレントスペースの分離との回答が多かったことから、その日の利用者ニーズに合わせ緩やかなゾーニングエリア内のサイレントスペースに可変性を持たせることも必要であると考えられる。

加えて、施設内での飲食については、「集中して読書や勉強をしたいので、サロンなどの飲食可能エリアと禁止エリアを明確にしてほしい」という意見もあるため、館全体の飲食ルールを決定する際は利用者のニーズの反映が必要であると考えられる。



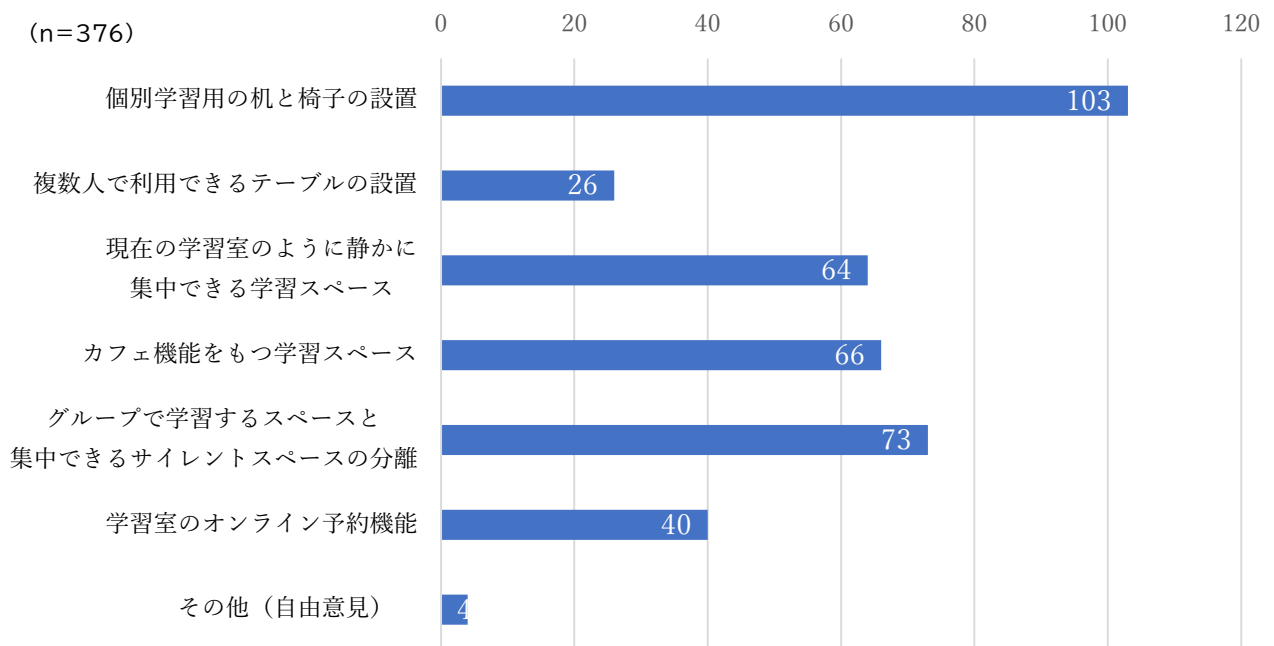


【問16 図書機能に関するその他自由意見】

- ・司書さんがイキイキ働ける環境
- ・時計が正面にあるとよい
- ・パソコンの持ち込みでき、読書や自学ができる机がほしい
- ・デジタルコンテンツ
- ・たまり場になるカフェは反対

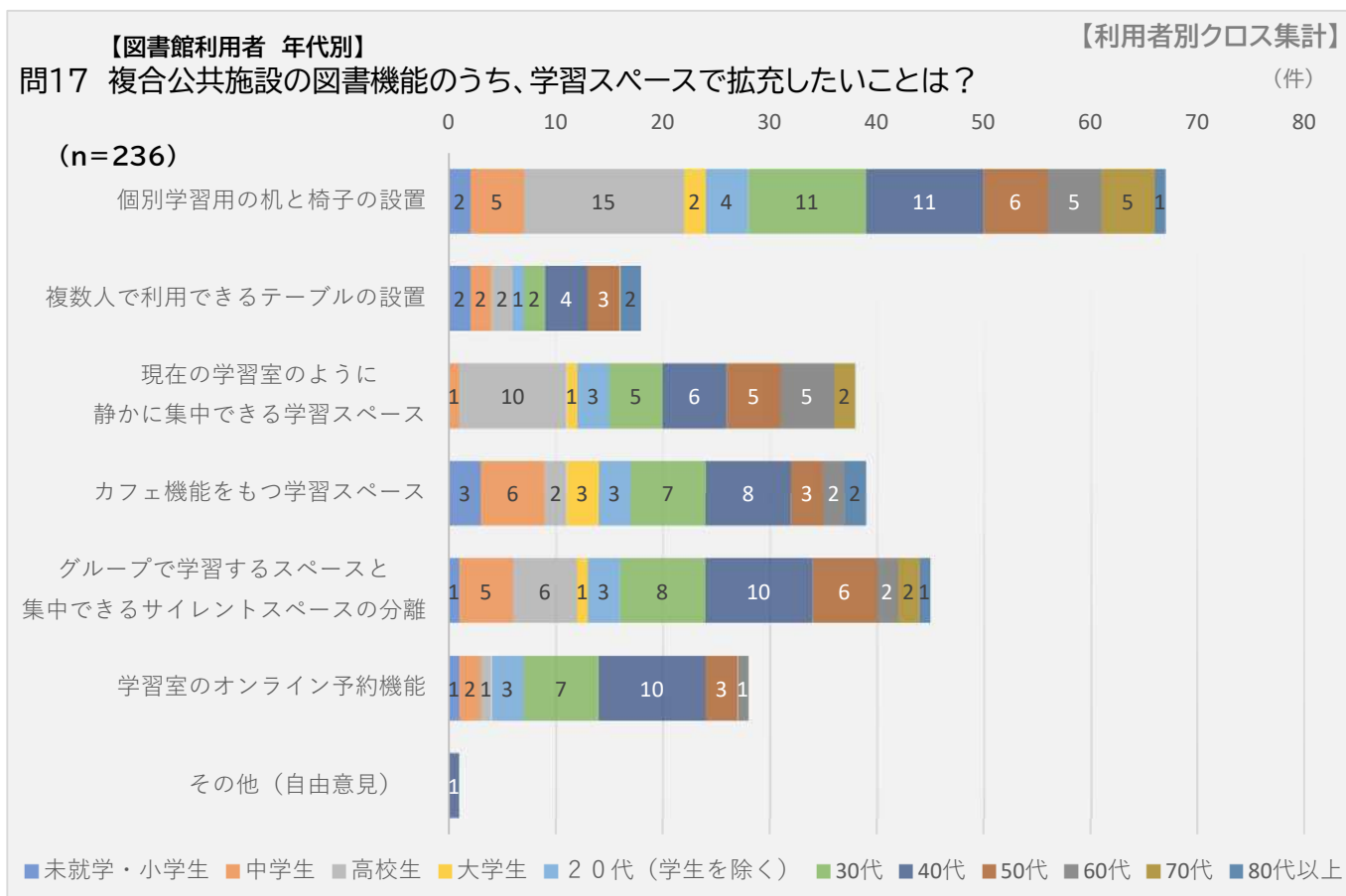
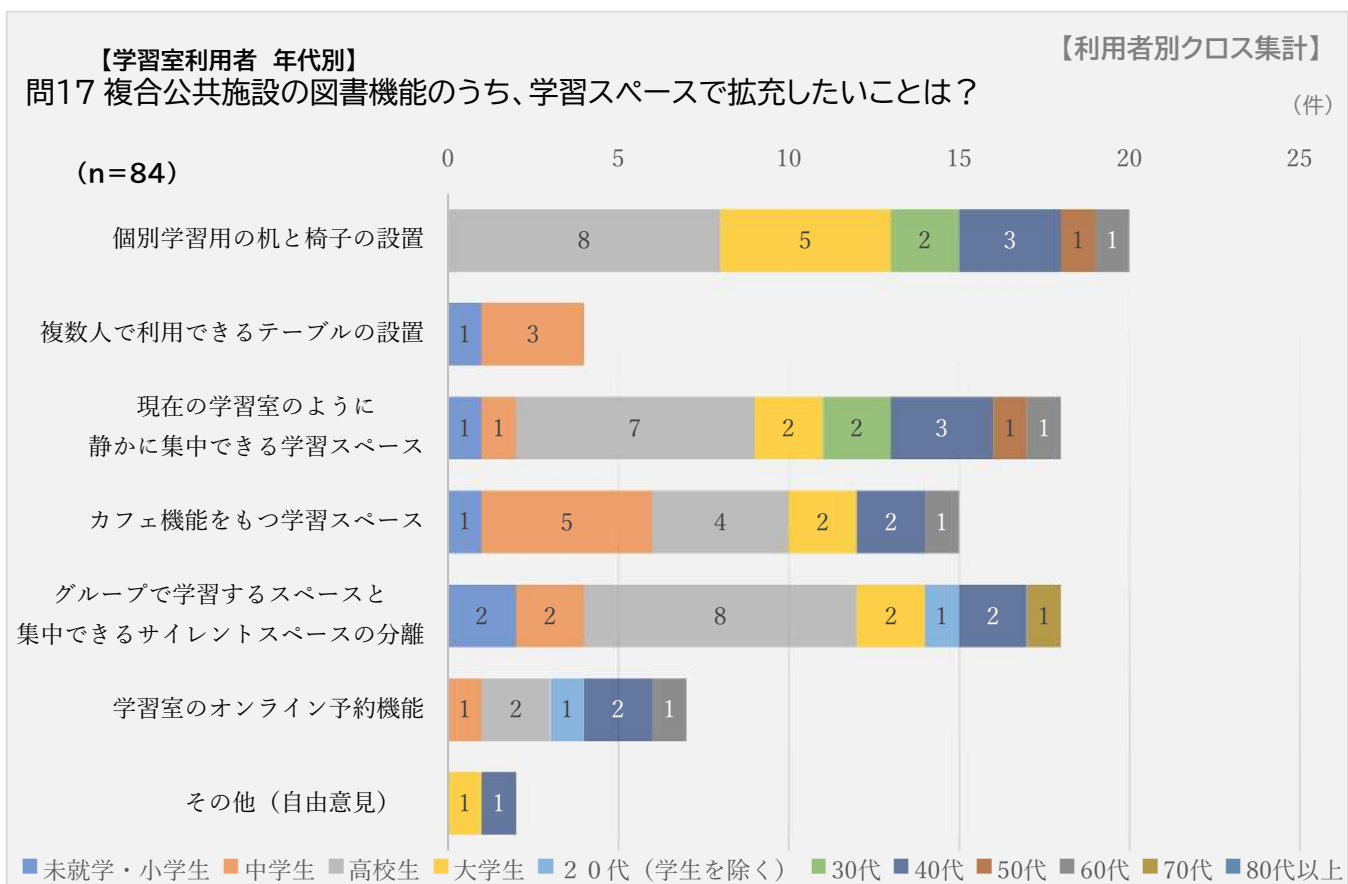
問17 図書機能のうち、学習スペースで拡充したいことは？

(件)



【問17 学習スペースの関するその他自由意見】

- ・学習スペースに Wi-Fi と USB ポートを付けてほしい
- ・学習室への本の持ち込みを OK とする
- ・掛川市の図書館で以前勉強していたが、グループでも個人で大勢が学習できる机があった。学習する部屋もガラス張りで、人にみられる分うるさくする人がいなくてよかった。



4. 開館・閉館時間、休館日について

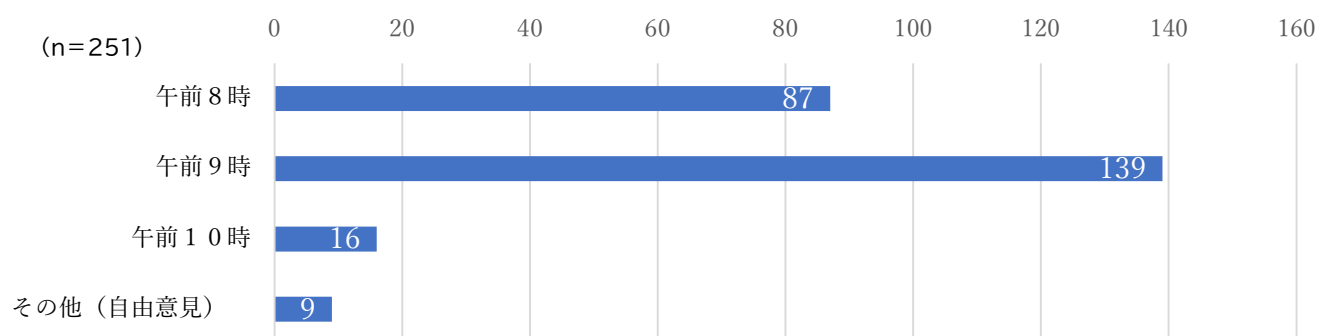
開館・閉館時間については、「9時から21時でよい」との回答が多く、休館日は年末始や月曜日という回答が多かったことから、年中無休でなくてもよいと考えられる。その他には、「駅北」という立地環境から待合や雨宿りとして開館時間外の利用を求める意見、カフェ機能のみ早朝から夜間まで利用を求める意見も多数あった。

図書館の開館・閉館時間については、9時から21時を望む回答が多かった。利用者別で「21時閉館」の選択割合が特に高かったのは「学習室利用者」であり、集中できる学習スペースの開館時間の拡大が求められている。また、地区別で見た場合、「日吉町、陶町、稲津町、明世町」の方が、「21時閉館」の選択率が高く、また「22時閉館、23時閉館」の意見も多いことから、施設から遠く送迎に時間がかかる地域の方ほど開館時間の拡大を望む傾向にある。

エリアごとに求められる利用時間は異なるため、市民ニーズに寄り添った検討が必要と考える。

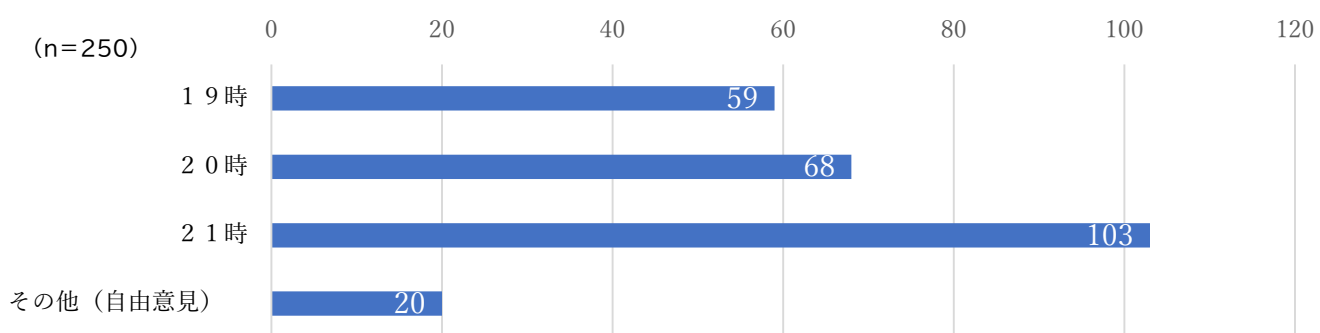
問10 複合公共施設全体の開館時間は何時がよい？

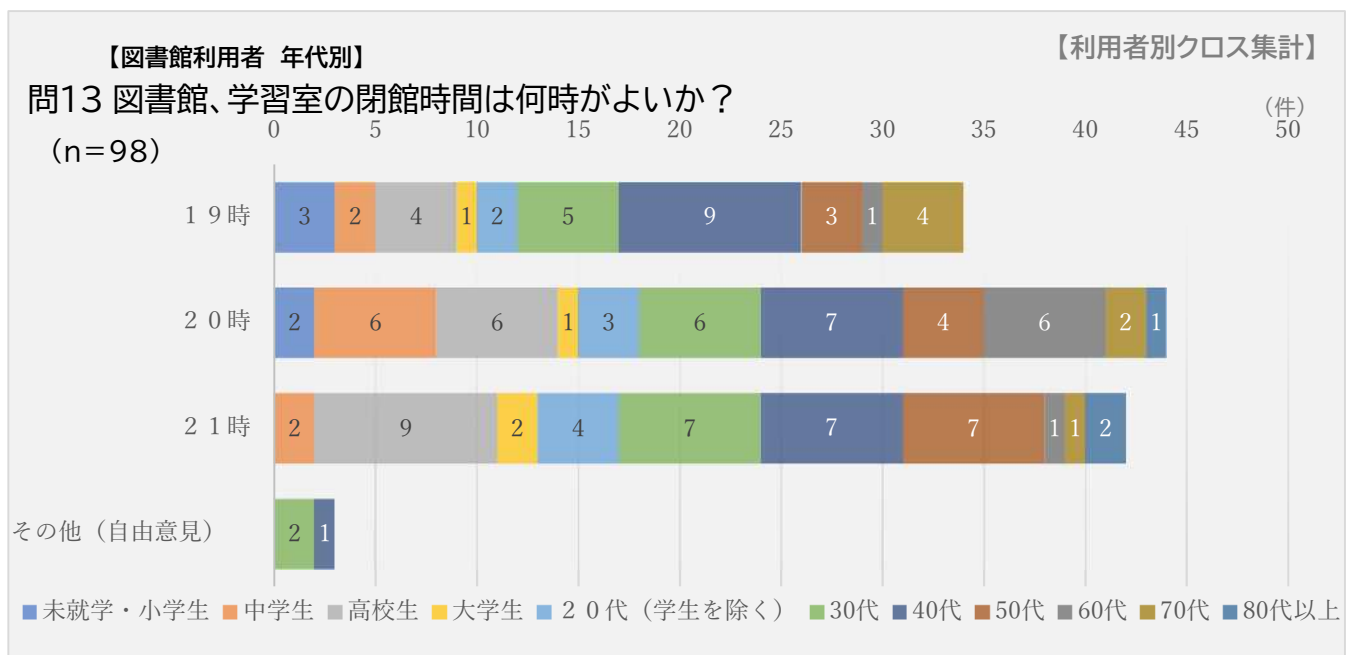
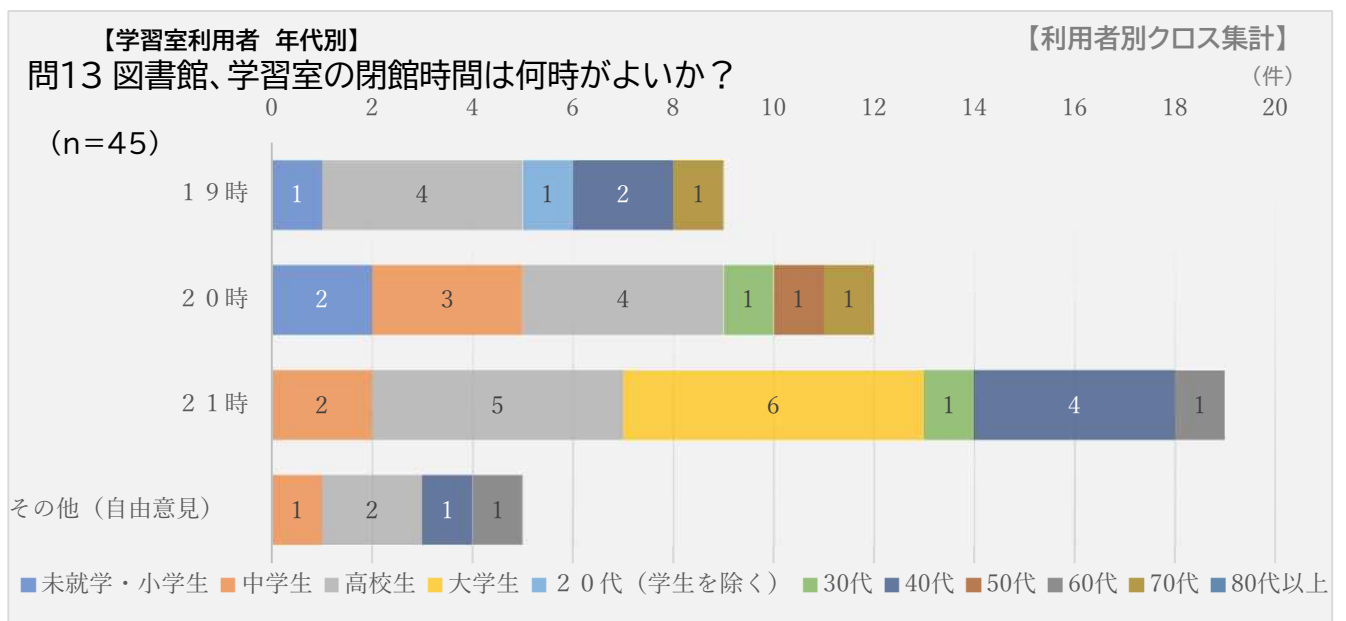
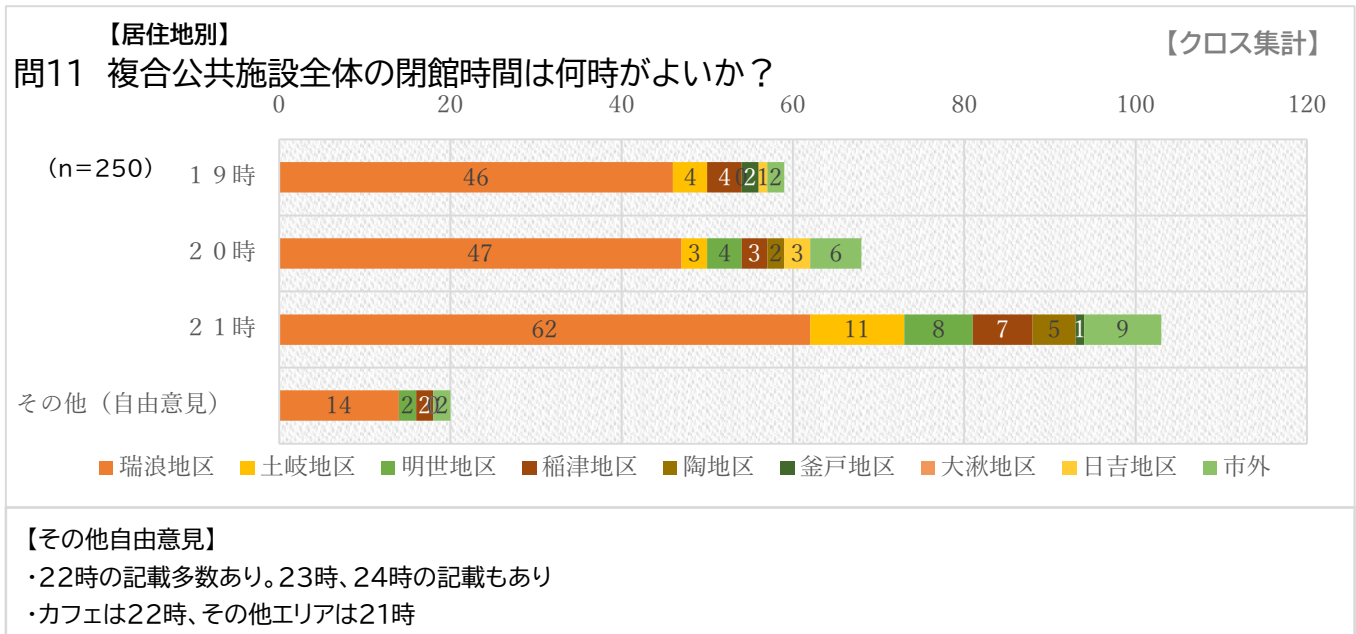
(件)



問11 複合公共施設全体の閉館時間は何時がよい？

(件)

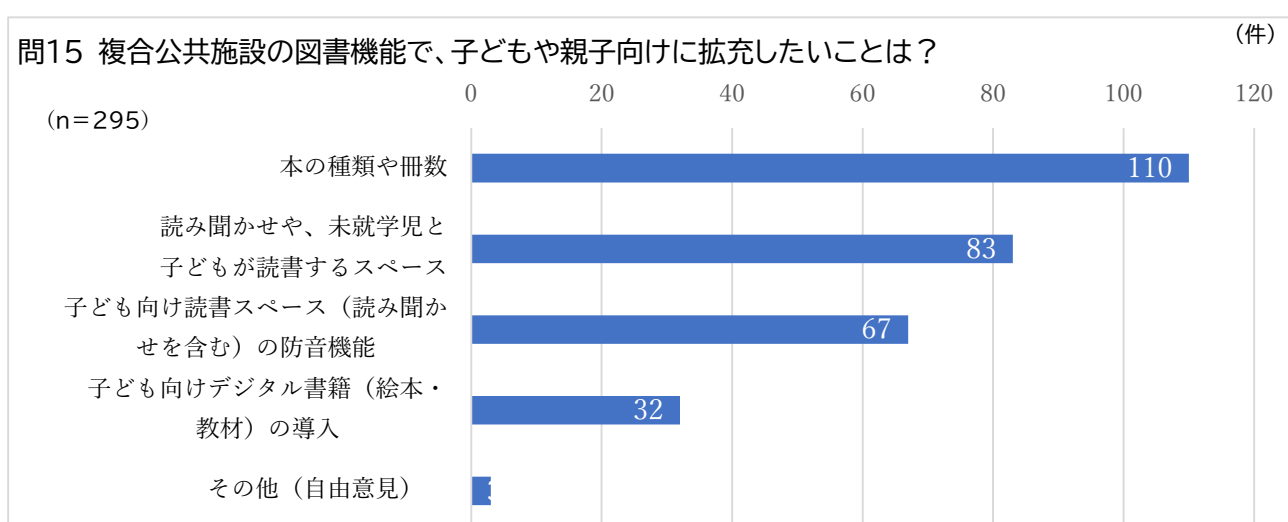




5. 図書館(学習室)機能について

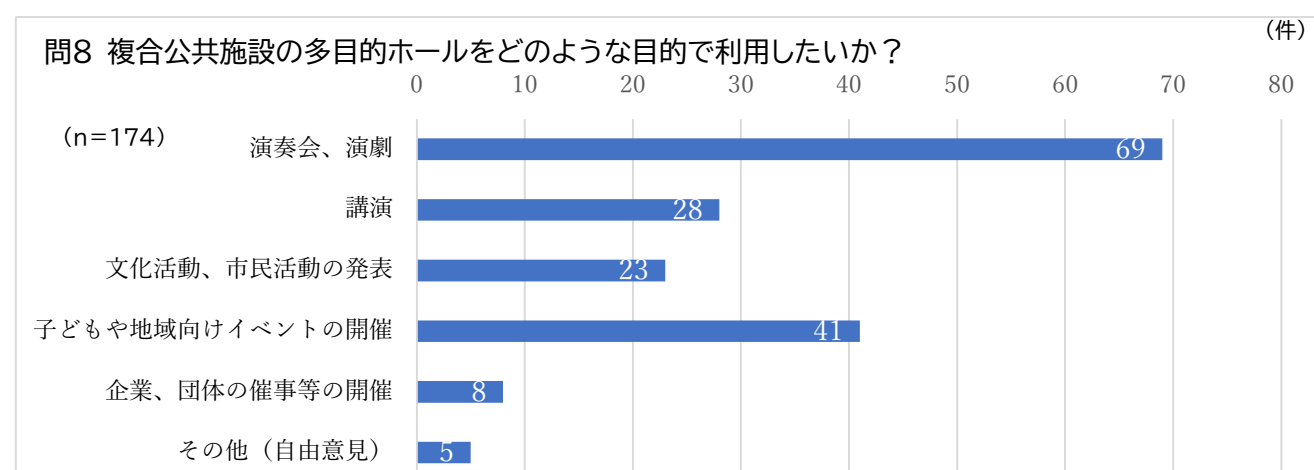
カフェ機能を持つ読書スペースや、子ども向けの本の種類や冊数を求める回答が多かった。図書館を利用されている市民の方々は、実際に本に触れて本を楽しむために図書館を訪れる人が多く、デジタル図書等で現在の蔵書数が極端に減ってしまうことは望ましくないとの意見が多くあった。広い世代を対象に行ったアンケートで、「新たな施設をどのような目的で利用すると思いますか？」の設問では、「図書館を利用する」の回答が最も多いことから、駅北地区複合公共施設の図書館機能の充実は重要と考える。

また、図書館分室や学校図書館等との蔵書や資料の情報共有、連携をすることで利便性の向上を望む回答があった。現在、市が所有する蔵書等の施設間の情報共有がなされていない。市の財産としての蔵書や資料の有効活用と図書館機能の維持、向上のためにも、図書館分室や学校図書館等との連携が必要であると考え。



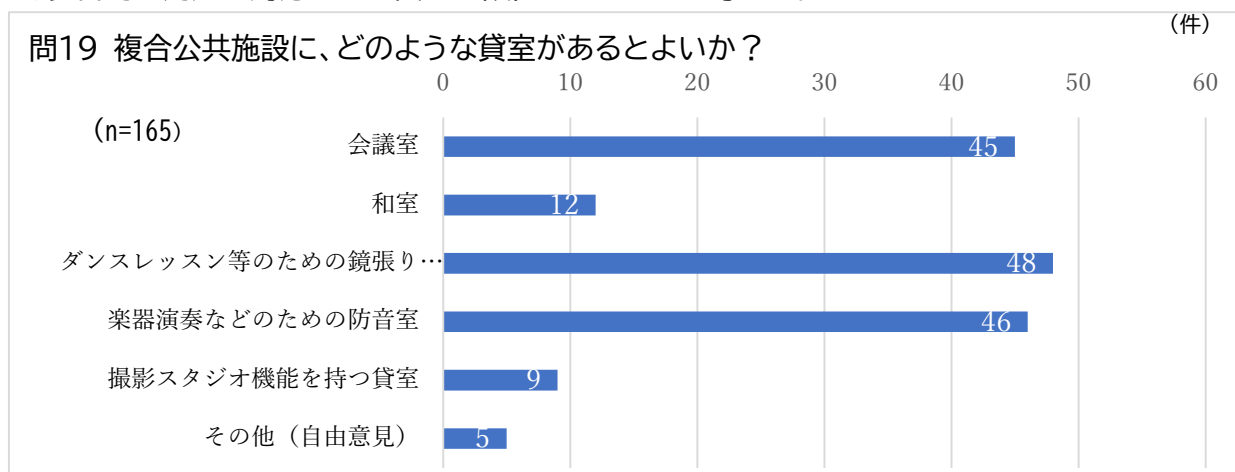
6. 多目的ホールについて

演奏会や演劇を目的として利用する回答が多かった。特に文化ホール利用者においては、「活動の発表の場が無くなってしまうのではないか」「文化・芸術・芸能に触れる機会、楽しめる機会が無くなってしまうのではないか」と危惧され、今の文化ホール機能を残してほしいとの声が多い。現状と同じように文化・芸術・芸能を楽しむことができる設備機能の維持を望む声が高い傾向にあるため、照明や音響設備を備えた多目的ホールが求められていると考える。



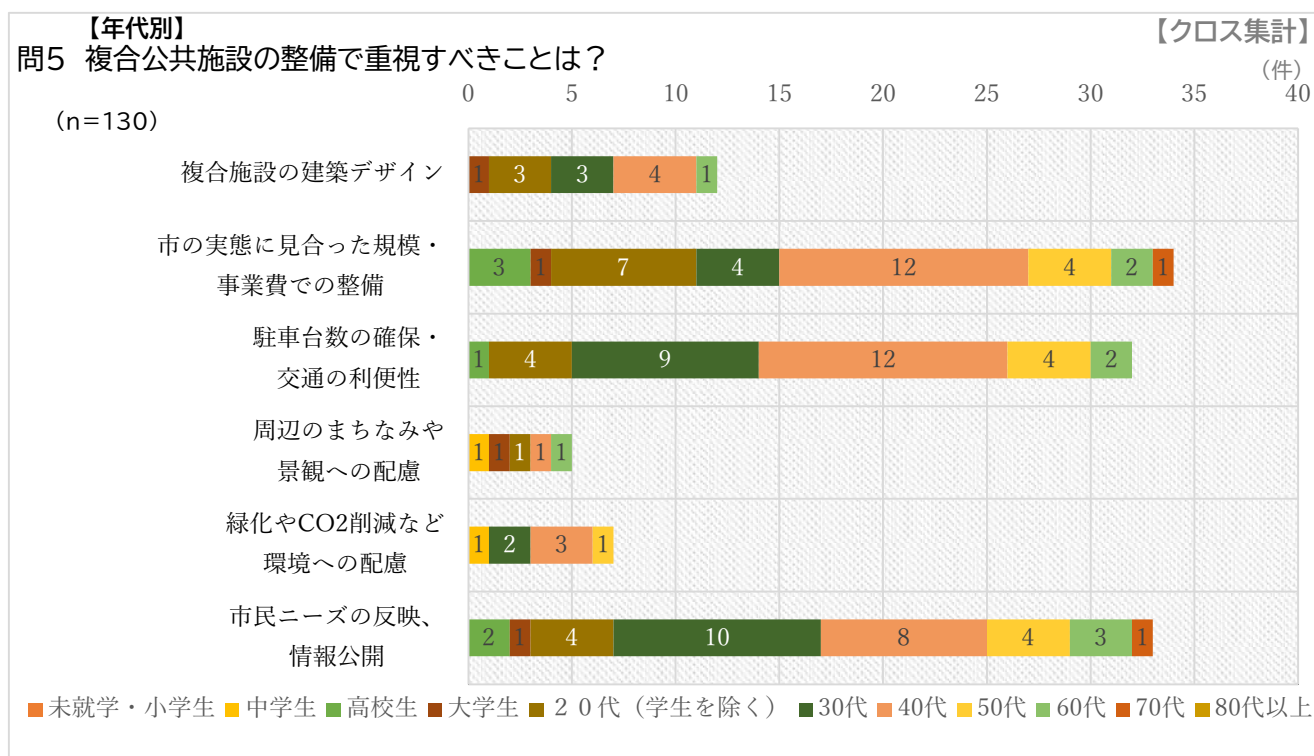
7. 貸室について

ダンスレッスンができる鏡張り貸室や楽器演奏や合唱ができる防音室、会議室を求める回答が多かった。しかし、規模の縮小で複数の貸室の設置は難しいため、複数の機能を備え、多目的な用途に対応できる貸室の設置が望ましいと考える。



8. 駐車場・駐輪場について

移転先が駅北側となり、施設の駐車場が駅の利用者との共用となることにより不足が懸念されるため、施設利用が促進されるような駐車場・駐輪場の整備と確保を望む意見があった。現在の「図書館利用者優先駐車場」のような、施設利用者が優先的に利用できる駐車場を確保するとともに、学生等の自転車利用者が施設を利用しやすいよう、施設利用者に見合った規模の駐輪場の整備が求められていると考える。



◎アンケート結果及び視察等に基づく委員会の意見

1. 瑞浪市内外から多くの人が訪れやすい、訪れたい施設を目指す

- (1)瑞浪市の中心地に建設される瑞浪駅北地区複合公共施設へ交通弱者が容易に訪れることができるよう、地域公共交通の充実を図られたい。
- (2)県内や東濃圏内で瑞浪駅北地区複合公共施設にしかない特徴ある機能を整備し、それを目的に市内外から定期的な来場者が見込めるような施設とすることを検討されたい。
- (3)駅北地区と駅南地区との連絡がスムーズとなる南北地下自由通路を整備し、駅周辺エリアの機能の一体性を創出されたい。
- (4)駅南地区と連携してイベントや事業を開催していくなどにより、新たな魅力を生み出し駅周辺の継続的な賑わいの創出に努められたい。
- (5)子ども達が継続して施設を利用することで、市民が集う場になっていくと考える。例えば「図書通帳(※)」を導入する等、図書館を継続的に利用するような仕組みを取り入れ、子どもや若者の施設利用を推進されたい。

※図書通帳・・・図書通帳とは、図書館の設置された専用端末で、通帳型の冊子に借りた本のタイトルや貸出日が印字されるものである。委員会で、すでに導入している地方自治体(千葉県松戸市)を視察してきたが、自分の読書の記録を手元に残すことができ、記帳する楽しさから、読書する機会が増えることで、図書館利用者の増加に繋がると考える。

2. 指定管理事業者による独立採算での運営

民間事業者としてのノウハウを活用し、経費削減、収益性の向上を視野に入れ、サービスの市民還元が考慮された効果的、効率的な魅力ある自主事業を積極的に展開し続ける等により、独立採算で運営できる見込みのある事業者を選定していただきたい。

3. 利用者ニーズへの運営事業者の対応を評価する仕組みづくりを推進

施設の運営管理が硬直化することのないよう、指定管理事業者の創意工夫により、多様化する利用者のニーズが施設運営に柔軟に反映され、その効果が可視化されるような仕組みづくりを構築していただきたい。